

第19回静岡大学技術報告会にあたって

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-02-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊東, 幸宏 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00008030

巻頭言

第 19 回静岡大学技術報告会にあたって

静岡大学学長 伊東幸宏

本日は、第 19 回の技術報告会になります。技術報告会も 19 回と長く続いており、今回は、技術部が組織化されて 2 回目となりました。

今日は二つお話したいことがあります。技術報告会は、それぞれの皆さんが行っている業務を他の人に発表する機会です。このような機会を通じて、一つの仕事を一人の職員しか出来ない状況を、脱して欲しいと思っています。それぞれの人が専門性を高めて、技術を高めていくことは当然必要ですが、この人がいないとこの仕事が出来ない、というような状況では長続きしません。それぞれの仕事を複数の人が担える体制を作っておかないと組織としてのパワーにはなりません。技術部という専門的な要素の強い組織では難しいことではありますが、それでも必要なことです。仮の話ですが、技術職員の誰かが突発的な事故でしばらく出勤できない、という状況がおこったとしましょう。このような時に業務が停止するのは、組織として困ります。こうした対応のために、それぞれの業務を複数の人間が担っていける体制を技術部として築いていって下さい。そのためには、このような技術報告会で、他の人がやっている仕事を理解して、A さんが X の仕事、B さんが Y の仕事をやっている状況の中で、A さんと B さんが協力して X と Y を両方一緒に行うようなイメージ、一つの仕事を複数の人が担える組織となっていきたいというのが、一つ目のお願いです。

もう一つは、技術部の職員のキャリアパスを考えて行く中で、大学職員としてのキャリアパスを幅広くとらえてほしいということです。大学や社会は今、大きな変革期にあります。個々人のキャリアもその大きな変革期の中にあるのです。一人ひとりが自分のキャリアを考えなければならない時代に入っているのです。

実際、技術部の職員が技術部の中だけで生涯を全うしようとする、技術部の上位ポストは少ないので、十分な処遇を講じることが難しいという状況があります。技術部の皆さんのご要望を受けて、極力上位ポストを作ってきていますが、それでも技術部の総勢から見ると技術部の上位ポストは少ないです。このような状況も踏まえ、技術部の人全員が、技術部でずっと定年まで働くことが本当にいいことなのか、もちろんそういう人もいないと困りますが、全員がそうでなければいけないのか、ということ一度考えてみることも必要ではないでしょうか。技術部の経験を生かして事務職の中で活躍できる人材もいるかもしれませんし、そういうキャリアパスもありなのではないでしょうか。また、技術部の人たちにも技術部のことだけでなく、全学の動きを知って欲しいという思いもあります。法人化後、定員削減の流れの中で人が削減されてきています。このような状況の中でこれだけの人員を要している技術部の集団は、大学にとってはとても貴重な戦力です。この集団の構成員全員が、技術部に閉じこもって仕事をするのはもったいない。技術部の中で技術を極めて、最後まで技術部で全うする人ももちろんいないといけません、どこかのタイミングで事務職の方に転換していくことは有り、そういった雰囲気や技術を技術職員と事務系職員の間で持ちあえるような組織になればいいなと思っています。また、そういったことも視野に入れつつ、技術

部の方々にも事務系の仕事を経験するような場を作って行きたいとも思っています。そのような場で、技術部の中だけでなく、学内全体を見渡すことができれば、技術職員としての仕事にも役に立つであろうし、技術部の中だけで閉じないキャリアパスを考えて行くためにも、役に立つでしょう。2 目目のお願いは技術部の中だけに閉じこもらず、事務系職員の働きぶりにも目を配り、大学全体の流れも把握して頂くきたいということです。

今日は2 3 件の沢山の報告をみんなでシェアする、長丁場の1 日になりますが、最後の懇親会まで楽しんで、お互いの仕事を理解して頂ければと思います。

第 19 回技術報告会にあたり

技術部長 碓氷泰市

皆さんおはようございます。

ご紹介いただきました、技術部長も4 年目になろうとしています。その間私も2 年間は技術部の一元化、昨年度からは一元化が達成されて、実際に2 年目が終わろうとしています。

平尾実行委員長からの話がありましたように、技術部もいろいろと発展途上です。私も4 年目を迎え技術部の方々とも面識が増えてきました、静岡のみならず浜松キャンパスの方ともよく話をする機会がございます。学長が技術部の将来像等について言及されました。私も同感です。

私が嬉しいのは、2 年目を迎えた報告会の内容です。学長が言及されていたように、将来に向け、これまでの、一技術職員が自分の守備範囲のみのスキルアップから脱却して、横のつながりや、また全学のことを考えながらの内容が今日の報告会でちりばめられていることです。たとえば、組織対応の内容を見ると、技術部全体の企画で袋井市での子供未来プロジェクト、子供に科学のおもしろさを教える等、皆さんで企画されています。

また、技術部のTV システムの確立で、部門を超えて農学部付属の便宜を図っていることです。それから、7 月に行われたSD 研修等で技術部が、それぞれ一丸となって対応していることが挙げられます。

一方、本年4 月から電子工学研究所が改組、それからグリーン科学技術研究所が新設されました。ご承知のように、両研究所には本学の先端機器が集中しております。その場を利用して、先端機器の研修やスキルアップに務め、全学支援に対して対応すべく先端機器の管理運営等も勉強しようという動きがあります。全学支援の中ではセキュリティに対する問題の対応、東部キャンパスでは茶毒蛾にも対応したり、様々によく拝見すると、横のつながりや全学支援、当初私自身が申し上げた中で、個人のスキルアップのみから脱却して、部局さらには全学と、非常に視野が広がった報告会ではないでしょうか。今後ますます、技術部を一元化して良かったと思われるように、私自身も進めた当事者でありますので、期待をこめているわけです。

今回懇親会も予定されている様です、1 日実りある会となることを期待しています。どうも有り難うございます。